

[ecology]
エコロジー

自然との共生をめざし、
環境に配慮した川づくりを
進めています。

河川環境の変化

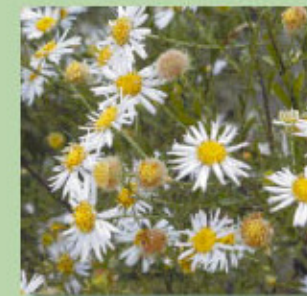
天竜川の豊かな
環境を次世代へ。

川は洪水のたびに大きく流れを変えたり、土砂を流出するなど、生き物のように姿を変えてきました。動植物たちは、そんな川にもたくましく適応して生きてきました。ところが、近年では社会環境の変化



貴重な河原固有植物が生きるレキ河原(飯田市水神橋付近)

にともない、従来からの動植物の生息・生育の場が減っています。一方、天竜川では全国の河川に比べ、多くの動植物が確認されています。天竜川上流河川事務所では、このような天竜川の豊かな環境を次の世代へ残していくために、動植物の生息・生育環境や美しい景観に配慮した川づくりを進めています。



絶滅が危惧されている
河原固有植物の「カワラノギク」

河川水辺での国勢調査で確認された動植物の種数比較

	確認種数		
	全国109水系平均種数※1	天竜川(上流部のみ)	天竜川(全域)
植物	553	855 (H13) ※2	947 (H8)
魚類	51	32 (H14)	61 (H9)
底生動物	161	219 (H13)	230 (H9)
陸上昆虫類	1,094	1,476 (H12)	2,248 (H12)
鳥類	99	115 (H10)	141 (H10)
両生・は虫・ほ乳類	24	30 (H10)	38 (H11)
合計	1,982	2,727	3,665

※1:全国109水系平均種数は、平成8年度～12年度の河川水辺の国勢調査結果から集計した。
※2:()内は調査実施年度を示す。